

講師の T 先生へ

先日のエアブラシ講座、ありがとうございます。

無理・無駄のない効率的・理論的な動きを見せていただきました。多くは語らず真摯な姿勢を示されました。先生の塗装への情熱が伝わってまいりました。

私の記憶の倉庫で埃をかぶっていた模型趣味がコトリと動いたように思います。

模型製作と子どもたちについて

さて、WOOの読者のみなさんは、プラモデルを作ったことがありますか？なんて書くと多くの方は「あたりまえやんけ、男の子なら誰かて一度は作ったことがあるやろ」と思われるでしょう。しかし今の子どもたちに、それは当てはまらないようです。

たしか今はゲーム機をはじめとする遊び道具には事欠きません（今ではプラモデルはおもちゃ屋の主役ではないようです）。そしてなにより今の子どもたちは時間に追われています。学校・クラブ活動以外にも、塾や習い事などのセカンドスクールへ通うことが常態化している昨今では、時間のかかる模型製作をしようという発想は生まれてこないのかもしれない。

何事でもそうでしょうが、子どもも大人も遊びの中から学ぶことは多いと思います。プラモデルなら、何度も色々な種類を作ることによって、様々なことを「学習」していくことでしょ。

行き当たりばったりで組み立てていき、どうしても取り付けできない部品が出てきたり、塗装ができなくなったり。あせって一気に塗装しようとして色むらを作ったり、十分に乾いていないのに触って指紋をつけてしまったり。やっと満足のいくものが出来上がったと思ったのに、床に放置していて踏みつけてしまったり。ラッカーの吸い過ぎで体調を崩したり……。

こんな経験を繰り返すうちに、手順書に書かれている組み立ての順番や塗装指示に意味があることを読みとっていくことでしょ。逆に最終形が頭の中にできるようになれば少々手順書をはみ出しても組み上げることができることでしょ。待つことの大切さも実感できるでしょうし、自分の健康を保つために環境を整備することが大事だとわかるかもしれません。

模型製作には、完成という目標達成のために、現状を知り、計画を立て、道具をそろえ、慎重に、時間をかけて、技能を駆使していくという一連のプロセスがあるわけですね。どれが欠けても目標は達成できないわけです。この目標は年齢や思い入れによってレベルに違いはあるのですが、建設・向上という前向きのベクトルで集約することができます。建設と破壊が対になっていることは事実ですが、対である破壊のみがクローズアップされがちな昨今、モノを作り上げていくプロセスを学ぶことは、子どもにとって大事なことでないでしょうか。また我が手を汚して、我が手を使って作り上げることに、なんでもバーチャルという風潮の中、とても意味のあることだと思えます。

大人にとっても、ゆっくりと腰を据えて、モノと向き合うことは、贅沢な時間の過ごし方かもしれませんね。  
ふちんかん、でした。